

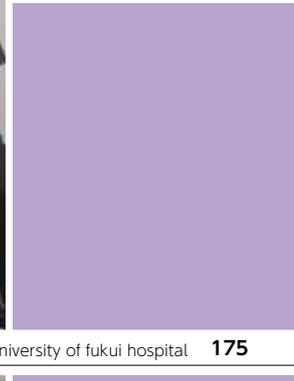
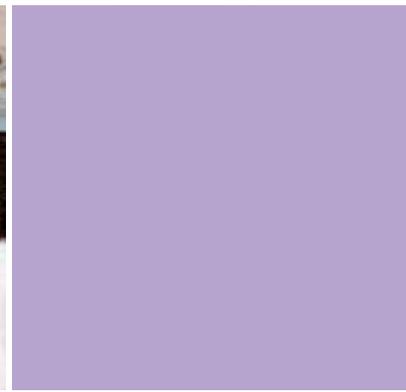
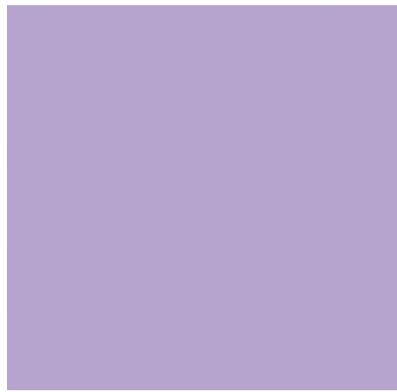
総合医療部門

- 24 放射線科
- 25 救急科／救急部／総合診療部
- 26 病理診断科／病理部

24

総合医療部門

放射線科



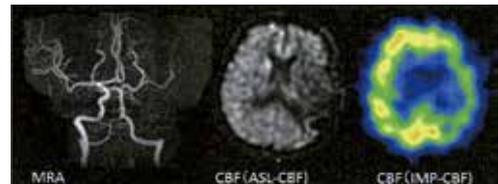
放射線科の業務

(診療と研究が密接に関連しているのが特徴です)

▶PET/CTによる形態と機能の総合診断



▶MRIによる形態診断と血流評価



▶リザーバー、大動脈ステントなどの低侵襲治療 (IVR)

▶CTを使った高精度線量集中照射 (放射線治療)

▶ 研究を極めたいならば、留学もOK！

▶放射線科ってこんなところです (医局員からひと言)

放射線画像の向こうには、その画像を投影された患者さんや、投影すると決めた医師など、様々な人がいます。

そのため、放射線科の読影は、その画像に何が見えること・何が見えないことを求められているかを考えながら読む必要があります、それでこそ臨床の一助になれると思います。それを達成するための環境は医局にそろっており、先生方の助けもあり、素晴らしい環境で日々研鑽を重ねています。

(小宮 英朗、卒後6年目)

あらゆる分野の疾患の知識が必要で勉強することも多く大変ではありますが、日々新たな知識、発見を得て患者さんの治療に貢献でき、とてもやりがいを感じています。

(竹内 聖喬、卒後6年目)

画像診断だけが放射線科ではありません。放射線治療やカテーテル治療、CTガイド下生検など、ひとことに放射線科と言ってもバリエーションが豊かで、自分に合った道を探せます。医療の花形ではないかもしれませんが、どれも大切な縁の下の力持ちだと思っています。

(冨田 幸宏、卒後5年目、福井赤十字病院放射線科にて研修中)

放射線画像のなかには単純X線、CT、MRI、RI、PET検査など多くの種類があり、それらを評価するにあたって全身臓器の幅広い知識が求められるため、毎日が勉強の連続です。しかし、日々の読影業務で非常に複雑な症例から些細な疑問まで、あらゆる症例について上級医の先生方から大変丁寧なフィードバックをいただけるため、とても手厚い環境で研鑽を重ねることができます。

(箱田小百合、卒後4年目)

みなさまの入局をお待ちしております 教室員一同

24 放射線科

科 長 (研修統括者)

辻川 哲也
出身大学 徳島大学（平成11年卒）
専門分野 腫瘍のPET/MRI診断、分子イメージングの臨床応用

診察内容

放射線診断学、核医学、血管内治療、放射線治療

教室の特色

PET、超高磁場MRIなどの最先端診断機器を応用した最新の画像診断、臨床教育にも力を注いでいる。

診療の特色

1. CT、MRI、RI、PETの総合画像診断
2. CT-PETを使用した先端画像
3. 超高磁場（3.0T）のMRI診断
4. 腹部疾患、大動脈疾患の血管内治療
5. 放射線治療

教室員に ついて

在院教室員数：14名（スタッフ9名、医員5名）

主な 研究内容

MR Arterial Spin labeling（ASL）perfusion 画像による脳神経疾患の診断
MR ASL perfusion画像の腹部領域への応用
Dual Energy CTを利用した肝障害の定量的評価
PET/MRI分子イメージングの臨床応用
放射線治療領域での基礎及び臨床研究
AI（Artificial Intelligence）を用いたX線画像の異常検知に関する研究
（パナソニック医工連携講座との共同研究）
Ai（Autopsy imaging）画像（CT, MRI）の死後画像変化の基礎的な検討
医学部学生教育のための総合的先進イメージングシステムの開発と画像教育法の確立

教室員募集 について

定 員：な し

申込締切：随 時

選考方法：面 接

説明会の日時、場所、申し込みの締め切り：

希望者には適宜連絡します。連絡先をご参照下さい。

専門医研修 カリキュラム

放射線科の専門分野として、以下の4分野を含む最新の画像診断機器を適切に利用できる画像診断学の専門医及び、放射線治療専門医のための専門医研修コースを組んでいます。

1. 画像診断一般、(CT・MRI・US・単純XP)
2. 核医学 (RI・PET)
3. IVR (インターベンショナルラディオロジー：血管内治療や透視・CTガイド下での診断・治療手技)
4. 放射線治療

研修の概略

研修1～3年目は新専門医研修制度プログラムに則って研修。研修4～6年目は各自の専門分野に即した研修を行う。

I. 専門医研修の概略：専門医研修1～3年（卒後3～5年）

専門研修1年目

知識：放射線科診療に必要な基礎的知識・病態を習得する。

技能：研修指導医の管理のもと、診断や治療に必要な画像検査が実施可能な技能を習得する。

態度：医師として、医の倫理や医療安全に基づいた適切な態度と習慣（基本的診療能力）を身につける。

専門研修2年目・3年目

知識：放射線科専門医レベルの放射線診断、IVR、放射線治療の知識を2年間で習得する。

技能：放射線科専門医レベルの疾患に対し、専門研修指導医の管理のもと、放射線診断、IVR、放射線治療が実施可能な技能を身につけ、必要に応じ専門研修指導医の援助を求める判断力を2年間で身につける。

専門性を持ちつつ臨床研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成します。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を培います。また、日本医学放射線学会認定教育講習会を、必要回数、受講します。

3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、放射線科専門医として診療できるよう専門医試験に臨むとともに、サブスペシャリティ領域専門医（放射線診断専門医または放射線治療専門医）の方向性を決定します。

研修コース

研修には以下の3コースが設定されています。どのコースに進むかは希望を聞いた上、相談で決定します。

コース	専攻医1年目	専攻医2年目	専攻医3年目
A	専門研修基幹施設	専門研修基幹施設	専門研修連携施設
B	専門研修基幹施設	専門研修連携施設	専門研修連携施設
C	専門研修連携施設	専門研修連携施設	専門研修基幹施設 (大学院・臨床)

コースA：

専門研修基幹施設を中心に研修する基本的なコースです。専攻医3年目までに診断、治療のいずれかを選択し、専門研修連携施設では、より専門的研修をめざす様、診断、治療いずれかの研修を中心とするプログラムとなります。

コースB：

専門研修連携施設を中心に研修するコースです。専門研修基幹施設での基本研修修了後、専門研修連携施設である関連病院で臨床医としての研修に重点をおきます。専門研修連携施設は原則として2年間同一施設ですが、諸事情により1年ごとの異動もあり得ます。

コースC：

専攻医初年度より専門研修連携施設で2年間研修し、3年目には専門研修基幹施設にて研修を行うコースです。大学院博士課程を早期より目指すことも可能なコースです。専門研修基幹施設の福井大学医学部附属病院では午後5時まで研修を行い、それ以降に大学院で博士号取得をめざします。サブスペシャリティ領域の研修も大学病院にて同様の状況で2年間継続できます。

研修施設群

基幹施設：福井大学医学部附属病院放射線科

連携施設1：福井赤十字病院放射線科

連携施設2：福井県立病院中央医療センター放射線科

連携施設3：福井県済生会病院放射線科

連携施設4：社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

連携施設5：杉田玄白記念 公立小浜病院

関連施設6：福井総合病院

II. 専門医研修の概略（専門医研修：4年目以降（卒後6年目以降））

関連施設での臨床症例の経験を主体とする。関連施設への赴任は、画像診断、IVR、放射線治療、それぞれの専門性を十分考慮したうえで、本人の希望により決定される。

4年目以降の到達目標と評価項目：

A. 画像診断領域（CT,MRI,US,単純XP）

- 1) 各種断層画像検査を一人で担当できる
- 2) 各種断層画像検査の適性を判断し、臨床医と議論できる
- 3) 自己の判断で、各症例を最終診断に導ける

B. 核医学領域 (RI, PET)

- 1) 核医学検査を一人で担当できる
- 2) 核医学検査の適応、画像所見に関し、臨床医と議論できる
- 3) 自己の判断で、各症例を最終診断に導ける

C. IVR領域

- 1) 塞栓術を術者として施行できる
- 2) 治療手技の適応を理解し、臨床医と議論できる
- 3) 超音波ガイド下の穿刺ができる
- 4) 胆道系IVRの基本を理解し、適切な助手ができる
- 5) 局所ablation療法の基本を理解し、適切な助手ができる

D. 放射線治療

- 1) 学外の治療患者の多い病院で研修を経験する。
- 2) 高線量率腔内照射の手技を行うことができる。
- 3) 定位的放射線照射の治療計画を施行できる。
- 4) 小線源治療の治療計画を施行できる。
- 5) 強度変調放射線治療の治療計画を施行できる。

E. 研究会、学術活動の目標と評価項目：

- 放射線関連の学会、セミナーなどに参加する。(1ポイント)
- 経験した症例について学会や研究会に発表する。(2ポイント)
- 経験した症例や興味ある症例について専門誌に投稿する。(3ポイント)

F. 専門医研修4年目に放射線科専門医試験に合格すること。**G. 専門医試験合格の後、2年間の研修を経て放射線診断専門医、治療専門医試験のいずれかに合格すること。**

専門医研修プログラム（4年目以降）の評価について

- 1) 上記A, B, C領域から少なくとも2領域について研修し、それぞれの領域で各項目を習得する。
- 2) D領域についての研修を行い、評価項目を達成する。
- 3) Eにつき年間5ポイントを達成すること。
- 4) F, Gの項目を達成すること。

大学院について

専門医研修3年目以降は、大学院にての研究を優先したい場合も本人の希望により可能である。臨床研修は研究テーマに即した分野を中心に続ける。本人の希望により決定される。

放射線科専門医試験について

専門医研修3年終了時には放射線科専門医試験、5年終了時には放射線診断専門医もしくは放射線治療専門医試験の受験資格が得られる。上記カリキュラムは、放射線診断専門医もしくは放射線治療専門医試験に合格可能な程度の知識技能を取得する事を標準としている。

関連の学会専門医、認定施設

- 1 日本医学放射線学会 放射線科専門医 総合修練機関
- 2 日本専門医機構 機構認定放射線科領域専門医プログラム基幹施設
- 3 日本核医学会 専門医教育病院
- 4 日本放射線腫瘍学会 認定施設
- 5 日本IVR学会 指導医修練施設・専門医修練施設

関連病院
について

常勤医師派遣		
福井赤十字病院 (福井市、3名)	福井県立病院 (福井市、3名)	市立敦賀病院 (敦賀市、1名)
福井総合病院 (福井市、2名)	金沢赤十字病院 (金沢市、2名)	やわたメディカルセンター (小松市、1名)
独立行政法人国立病院機構敦賀医療センター (敦賀市、1名)	林病院 (越前市、1名)	松波総合病院 (岐阜県、3名)
杉田玄白記念公立小浜病院 (小浜市、3名)	公立丹南病院 (鯖江市、1名)	福井勝山総合病院 (勝山市、1名)
福井循環器病院 (福井市、1名)		
非常勤医師派遣		
県内の病院中心に多数		

留学状況

1. Yale University (New Haven)
2. The university of Texas MD Anderson Cancer Center (Houston)
3. Hospitals of the University of Pennsylvania (Philadelphia)
4. Stanford University, School of Medicine (Palo Alto)
5. University of Toronto (Toronto)
6. National Cancer Institute (Bethesda) など

その他

女性医師の産休について：産休、産後の勤務等もできるだけ考慮いたします。

給与について：外勤も含め国立大学法人の規定によります。

さらに詳しいことが知りたい方や施設の見学を希望される方も歓迎いたします。
ご希望の方は下記までご連絡下さい。

連絡先：辻川哲也 (awaji@u-fukui.ac.jp)、
または医局事務室 (TEL 0776-61-3111 〈Ex. 2335〉) まで